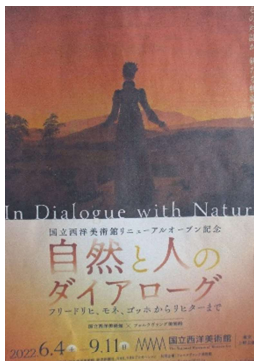


「常設展」 自然と人のダイアログ

「小企画展」 調和にむかって：ル・コルビュジエ芸術の

第二次マシン・エイジー 大成建設コレクションより

国立西洋美術館(上野公園) 2022.04.09~09.11



「国立西洋美術館」は、もともと「松方コレクション」を収蔵する施設として建設されたが、その後松方コレクションに無かったオールドマスター（18世紀以前の芸術家）の作品も積極的に収蔵し、現在では15世紀から20世紀初頭までの美術を概観できるまでに成長した。当美術館は、暫く施設整備のため休館していたが、リ・ニューアルされ近現代美術の名作が揃う「常設展」と「設計者コルビュジェの小企画展」の二つの記念展として開催されている。



フィンセント・ファン・ゴッホ 《刈り入れ》 1889年 油彩/カンヴァス

画伯が精神病治療のために入院した療養院の部屋から見た風景画で、アルル時代の原色に近い平坦な色面表現から、力強く荒々しいタッチに変化している。

クロード・モネ 《陽を浴びるポプラ並木》 1891年 油彩/カンヴァス

エプト川の水面に映る逆立ちの映像も、日を浴びる樹木や草むらの輝きに劣ることなく輝く画像は、整然と並ぶ単純で直線的な構図で、前面にポプラの幹が垂直に画面を突き抜けるように力強く描かれて、後方には大きくS字型の曲線を描いた並木があり、鮮やかな明るい色彩だけを繰り返している。

ガスパル・ダーフィット・フリードリヒ 《虹の風景》 1810年以前

作品に描かれている男性は、おそらく作者本人自身だろうとされ、背景にはエルベ川沿いの山ローゼンベルク山が広がっているのは、単なる情景ではなくて宗教的な意味合いの込められた作品であろうとされている。

ガスパル・ダーフィット・フリードリヒ 《夕日の前に立つ女性》 1818年頃

また、「小企画展」では、大成建設のコレクションより画家・建築家の「ル・コルビュジェ（1887~1965）」の晩年の絵画と素描の作品が展示されている。